

大切に育てよう “生きるチカラ”

生きる力を育む幼児教育



幼児期の子どもたちの

武蔵野市では、市内の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校への幼児教育に関するアンケート調査や、幼児教育施設の視察をもとに検討を重ね、「生きる力を育む幼児教育」の考え方をとりまとめた報告書を作成しました。この考え方を園の教員・保育者だけでなく保護者や地域のみなさんと広く共有しながら、子どもたちのよりよい育ちを支えていきたいと考えています。

大切にしたい幼児期の「生きる力」

—— 自分を広げる力 ——

身近な大人からの
愛情と信頼に包まれる中で、
安心して自分を発揮する力

自己肯定感

心身の健康が守られる中で、
自分のことは
自分でしようとする力

心身の健康・基本的
生活習慣の自立

生活や遊びの中で
様々なものに出会い、心を
動かし、自ら関わろうとする力

感性と主体性

—— 環境と関わる力 ——

好奇心や探究心を発揮し、
試行錯誤しながら
諦めずに取り組む力

目標に向かって
持続する力

—— 人と関わる力 ——

他者と協同する
面白さと喜びを感じ、
関わる力

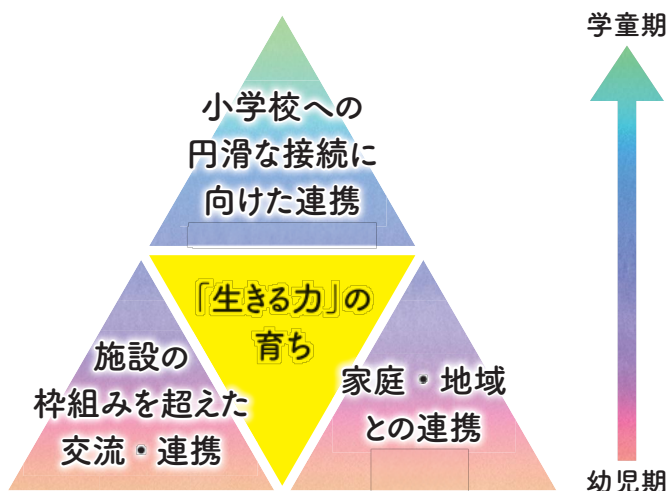
協同性



“生きるチカラ”とは？

より質の高い幼児教育を目指して
さまざまな連携や取り組みを検討していきます

幼稚園・保育園・認定こども園などの幼児教育施設では、それぞれの施設の理念や独自性に基づいた教育・保育を実践しています。これを尊重しながら、さらに「生きる力を育む」という観点から、各施設間の連携、家庭や地域社会との連携、小学校との連携を深め、より多角的な取り組みを進めることで、子どもたちが健やかに成長できる環境を一層充実させていく必要があります。



幼稚園

学校教育法に基づく学校で、満3歳～5歳を対象として4時間（標準）の教育を行います。園によっては、教育時間後に預かり保育も実施しています。

市内の施設：12園（全て私立）

保育園（認可保育所）

児童福祉法に基づく児童福祉施設で、保護者の就労など保育を必要とする要件のある0～5歳を対象に保育を行います。保育時間は8時間または最長で11時間です。

市内の施設：36園

認定こども園

教育と保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育園の機能を併せ持っています。利用時間は利用者の認定区分により、4時間・8時間・11時間のいずれかとなっています。

市内の施設：1園



“生きるチ

テーマ1

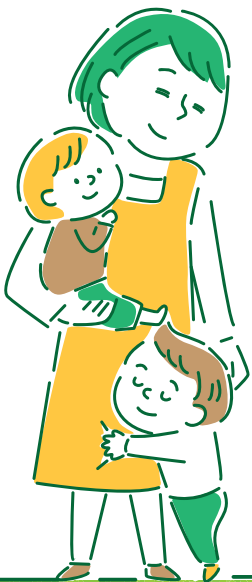
子どもの成長の基礎になる、
安心感・自己肯定感・
他者への信頼感

★子どもは乳幼児期に大人との愛着の形成による「安心感」、ありのままの自分でいいという「自己肯定感」「他者への信頼感」を土台として、身近な環境との関わりを深める中で心情・意欲・態度を身に付け、基本的な生活習慣を獲得していきます。

☾私たち大人は、受容的・応答的に子どもに関わりながら、子どもが自分の思いを表したり、身近なもの・人・ことへの興味をもって自発的な関わりを深めたりできるように配慮することが大切です。

★：各テーマに大切なこと

☾：★を実践するために必要なこと

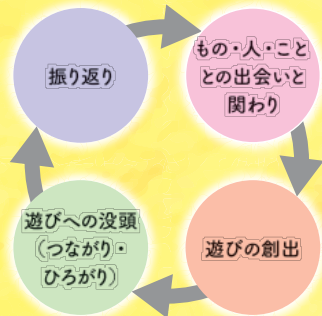


カラ”を育むために大切に

テーマ 2

遊びを通した豊かな学びを大切に

★「遊び」は、子どもの自発性によって深まり、広がっていきます。自発性は面白い・楽しいという心の動きと密接なつながりがあり、それが原動力となってさらに面白く楽しくなるように、子どもはもの・人・ことへの関わりを深めていきます。こうした循環によって、深い充実感と他の場面にも生かせる知識や技能がもたらされ、そのことが主体的で対話的な深い学びにつながっていきます。



●たっぷり遊べる時間と空間を保障しましょう。



友達と遊び込む



したいこと・取り組んでいき

テーマ3

「生きる力の基礎」が育まれる環境づくり

★グローバル化や急速な情報化などを背景に価値観の多様化が進み、今後さらに変化の激しい時代を迎えることが予想される中、将来、子どもたちがこうした社会を生きていくためには、自ら課題を発見して考え、多様な考え方・背景・文化をもつ他者と協同して課題を解決できる力が必要です。そのための多面にわたる能力の基礎を幼児期に育むことが求められています。

🌙『生きる力の基礎』は、幼児が自ら積極的にもの・人・ことなどの周囲の環境と関わり、体験することを通して育まれます。幼児が主体的に環境に関わって遊びを展開するようになるために、園では幼児の興味関心や発達の道筋を見通してねらいを立て、適切な環境を計画的に構成していきます。



友達と力を合わせて
問題を解決する



たいこと

テーマ 4

幼児教育以降も含めて 教育を連続的に考える

❖ 子どもの健やかな成長が保障されるためには、子どもの発達の連続性を大切に、幼児教育以降の教育との滑らかな接続を図ることが望まれます。そうした観点から、最初の接続としての幼児教育施設と小学校との連携は、生涯にわたる「生きる力」を身に付けるうえで、重要な意味をもっています。

🌙 国が示した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿[※]」が、到達目標ではないことを幼児教育施設および小学校の教職員が共に理解しつつ、目指すべき方向性として共有し、子どもの発達の連続性を話し合うための手掛かりとしています。



小学校とつながる

※ 2018年4月から加わった指針で、10の姿が示されています。

- ①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現



保護者のみなさまへ

遊びは学びの宝庫です

子どもは掌にたくさんの可能性を握りしめて生まれてきます。

何かに興味や関心をもったら、自分から手を伸ばし、触れて、確かめようとする。

そして、「面白い」と思う気持ちをふくらませながら、関わりを深めていく。

そのプロセスにおいて、生きていくのに必要な多くのことを学びとっていきます。

子どもは生まれながらにして能動的な「学び手」なのです。

私たちの社会は今、「先行きが不透明で予測が困難な時代」を迎えています。

そのような時代を生きていくためには、自ら考え、判断し、他者と協力しながら柔軟に行動する力が求められます。

その土台は、まさに乳幼児期の生活や遊びの中で築かれていくなされています。

私たち大人の役割は、子どもたちのもつ関わる力、学びとる力に信頼を寄せ、遊ぶ時間と空間、適切な環境をしっかり保障することです。

その上で、必要があれば、手を差し伸べることです。

遊びは学びの宝庫です。

このことを、幼児教育関係者、学校教育関係者、保護者や地域のみなさまと共有し、子どもたちの歩みを支えていけたらと思います。

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議メンバーを代表して

聖心女子大学教授 河邊 貴子



「武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議報告書」の全文は、市役所 7 階(西棟)の市政資料コーナーで閲覧できるほか、市ホームページ(右記二次元コード)でもご覧いただけます。



「武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議報告書」リーフレット

大切に育てよう
“生きるチカラ”

編集・発行：武蔵野市子ども家庭部子ども育成課

〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2-2-28

電話：0422-60-1854 FAX：0422-51-9223